

審判講習会 参加報告書

平成 28 年 9 月 27 日

報告者 川村 貴昭 印

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	第 27 回 日本選抜車椅子バスケットボール選手権大会
参加者 (報告者)	川村 貴昭 (所属カテゴリー) クラブ連盟
期 日	平成 28 年 9 月 24 日 (土) から 平成 28 年 9 月 25 日 (日)
会 場	群馬県高崎市浜川体育館
講師	杉山 兼芳、門川 浩人、菅野 英輔、岸 良太郎
参加者 (審判員)	平田 貴浩、一箭 良枝、黒澤 亮、齋藤 登、松本 健、清宮 太郎、立田 裕志、 宮内 悟、朝倉 一、免田 佳子、長沼 秀明、四方田 麻菜美、末 政弘、二階堂 俊介、 佐藤 勝信、児玉 陽子、宮古 幸夫、吉田 規剛、田中 敏弘、清水 翔太、野地 宏、 斗沢 祐香、玉井 聡、内藤 克明、川村 貴昭 (報告者)
報告① 講話 (審判会議)	1 大会に先だって… ・今大会は来年行われる日本選手権大会 (内閣総理大臣杯) への出場権を賭けたものでもある。プレイヤー、チームは真剣な戦いをする中で、審判員も緊張感を持って取り組んでほしい。 ・日本公認審査会も兼ねているため、各ブロック公認の方々には、思い切り挑戦してほしい。特に、足を運んで 1 試合 40 分間走り続けること、よりよい位置取りを求め続ける姿勢を見せてほしい。 2 審判割当発表 3 その他伝達事項 (車検等について) ・車椅子の計測については、今大会は各チーム 1 試合目のみの実施 ・第 1 試合目のチームはコート上、第 2 試合目以降のチームはコート中央にて ・クラスファイヤーも参加
報告② 審査ゲーム 1	■ゲ ー ム 日時 9 月 24 日 (土) 11 時 30 分～トスアップ 川崎 WSC (神奈川) 対 神戸 ZERO (兵庫) ■割当 主審 玉井 聡 氏 (愛知県) 副審 1 川村 貴昭 (愛媛県 報告者) 副審 2 斗沢 祐香 氏 (青森県) ■プレ・ゲーム・カンファレンス 1、スリー・パーソン・システムについて、3 人の協力の確認 ⇒3 人のプライマリーへの意識を強く持ち、役割分担することを提示。特にセンターレフリーはコートの半分が自分のエリアなので、位置取りを工夫することを確認。また、相手のエリアをコールすることは絶対にしない意識付けをした (特にクロスコールは厳禁)。自分のプライマリーの中でしっかりと足を運びながらよりよい位置はどこかを求める姿勢を見せる旨話し合った。時

	<p>には、スプリットラインを基準に、縦に見る場面もあることを共有した。そして、オールコートプレスの際は、場合によっては変則的な位置取りになる場合があることを確認し、アイ・コンタクトをしたり、相手のレフリーの位置取りを視野に入れたりしながら協力していくことを共通認識した。</p> <p>2、車椅子独特のプレイについての対応</p> <p>⇒・プレイヤーの転倒については、ペイントエリア内は即座に止める（それ以外はその都度判断）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の接触が平行かコンバージングかの判断を明確にする ・ラインバイオレーションについての対応（警告） <p>3、ゲーム管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマー・ショットクロックの管理はオポジットサイドのレフリー+2人目が協力 ・ベンチ・TOはテーブルサイドのレフリーが対応 <p>4、両チームの特徴、キーマンについて情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インサイドのポジション取りのところでリード（センター）が必ず目を当てる ・フォワードのトラッシュトーク（アピールや揺さぶり）への毅然とした対応をする <p>■試合中</p> <p>序盤から激しい接触が多く、ブロックチャージの大きな判定を決断する場面が続いた。3人がそれぞれ自分のプライマリーを意識し、それぞれの場所で動き続けることができた。その中で、プリゲームで話したような変則的なローテーションを行ってもよい場面があったが、目の前のプレイに集中するあまり、相手レフリーの位置を感じるができない場面もあった。判定について、すべてが説得力のあるものとはいえなかったが、笛にして取り上げ、ゲームを進めていった。気持ちを切り替え、次のプレイに集中することができていたので、崩れることがなかった。</p> <p>■試合後（自省、アドバイス等）</p> <p>審査ゲームであることの重圧や、序盤の激しい接触に、緊張した入りだったが、3人が自分のエリアで判定することができた。よりよい位置取りを求めていく上での動きも3人がよく動いており、どこを見ているのかが外から見ていて明確に伝わってきた。後半、試合が落ち着くにつれて、ファウルの現象が少なくなっていたが、だからこそ最後まで一貫してイリーガルなものを取り上げ続ける意識が必要であることを実感した。</p> <p>⇒次への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行かコンバージングかの見極めに挑戦する ・ディフェンスの動き（先にその位置を占めていたのはどちらか）をより確認する ・基本を今一度しっかりと実践する（時限の終わり、24秒の確認）
<p>報告③ 審査ゲーム2</p>	<p>■ゲーム日時 9月25日（土）16時00分～トスアップ</p> <p>Team ZERO（関東） 対 La vitz（東京）</p> <p>■割当 主審 玉井 聡 氏（愛知県） 副審1 川村 貴昭（愛媛県 報告者） 副審2 斗沢 祐香 氏（青森県）</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス</p> <p>1試合目と同じクルーで挑戦することを踏まえ、先の試合でできたことは継続して、できなかったことはコートで実践できるよう心がけていく旨話した。審査ゲームとしては最後のゲームなので、試合後には倒れてもいっくらい走って、積極的に取り組む旨話した。課題については、上記のところを各々が挑戦することを共有した。</p> <p>■試合中</p>

	<p>両チームの力の差（チェアスキル）が明確に出ており、ラインディフェンスを突破できず、フロントコートの高い位置でプレイをさせられる部分が多い立ち上がりだった。コースを占め、堅く守るディフェンスに対し、オフェンスから車椅子を当てに行って位置を占めようとする接触が多く、どちらに責任があるのかを見極めることを意識した。点差が大きく離れた後は、3人でコミュニケーションを取りながら、不当なもの判断したものだけを取り上げること、シュートに対するファウルは見逃さないことを共有して臨んだ。</p> <p>■試合後（自省、アドバイス等）</p> <p>同じクルーの2試合目ということで、協力がスムーズに行えていた。3人の相性も良く、それぞれが自分の役割を果たせていた。1試合目とは違い、大きな現象が少ない中、試合の流れを感じてアドバンテージにも挑戦している姿勢が見られ、見ていてストレスを感じなかった。最後まで運動量が落ちず、走りきれたことに好感が持てた。</p> <p>⇒次への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレイに対する距離感も大事だが、よりよい「角度」を見つけないという意識を持つ ・判定の材料を増やすために、車椅子、プレイヤーのどこを見るべきかをより考えていく（バンパー、車輪、腕、手、プレイヤーの面など、見るべきところが多くある） ・接触の原理（進路の横断、交わり等）をさらに学習し、概念を整理していく ・ビデオ映像を見て自分のレフリングを振り返り、判定した動き、位置取りを見直す <p>□結果</p> <p>⇒日本公認審査合格</p>
<p>報告④ ルールテスト</p>	<p>■要項</p> <p>制限時間 30 分、問題 20 問</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子バスケット特有のルールを問う問題（リフティング、ジャンプ、ヴァイオリション） ・新ルール（現行）について ・あるプレイのシチュエーションが提示され、どのように判定するのかを問う問題 <p>□結果</p> <p>⇒100 点（満点）</p>
<p>所感</p>	<p>初めて参加させていただいた日本選抜大会への挑戦、日本公認審査会の上級ライセンス取得に向けての挑戦、今回2つの挑戦をさせていただいた。目標は『1試合誰よりも走り続け、よりよい位置を求め続ける』ことを意識して臨んだ。</p> <p>日本全国、東北から九州までレフリーの方々が一堂に会し、日頃の活動やパラリンピックの話など、たくさんお話をさせていただいた。車椅子バスケットのレフリーとして駆け出しの自分にとって、初めてお会いする方々も多く、新しい出会いを嬉しく感じた。特に、共に審査を戦ったクルーの方々と絆を大切にしていきたい。終始温かい雰囲気でも迎えていただき、たくさんの励ましの言葉をいただき、合格発表では共に喜んでくださったことに深く感謝したい。</p> <p>来年度は愛媛国体の後、全国障害者スポーツ大会が開催される。健常、車椅子2つのレフリーとして、1つでも多くのゲームを担当することを目標に、よりいっそう励んでいく覚悟である。</p> <p>最後になりましたが、今大会派遣のために尽力くださった方々、大会に携わった方々、日本全国のレフリーの仲間の方々に感謝します。そして何より、今大会に至るまで、ビデオ撮影、ルール勉強、毎試合の目標設定や振り返りの指導、励ましの言葉をかけ続けていただいた地元の仲間の皆様に深く感謝申し上げます、私の報告とさせていただきます。</p> <p>すべては、皆さんの支えがあってこそ、このたびの挑戦が叶いました。本当に有難うございました。</p>

